

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.42

【手をつなぎ、心をつなぎあう】

4月にはいって最初の日曜日、“世界のサカモト”こと音楽家の坂本龍一さんの訃報が飛び込んできました。坂本さんは少し前に咽頭がんをわずらっていらして、闘病されていましたがよくなったと報告されていましたが、今度は別の部位のがんで生命を落とされたようです。

永遠に続く生命など存在しないことは理解しておりますが、71歳。才能豊かな音楽家はまだまだ多くの方々の心ふるわす音楽を生み出す可能性があった……と思うと残念でなりません。みやちゃんと共に「がん哲学外来」に関わっているので、がんに罹患され亡くなられた方については他人事とは思えません。

でも坂本さんはこの世からいなくなりましたが、故人がうみだした音楽は残ります。すばらしい生きた証ですよ。

ほとんど薬局にいない薬剤師のみやちゃんは、時間があると車で患者さんの家をまわったり、手掛けている多くの事業関係者にあたり、イベントに参加したりしています。超多忙なみやちゃんの仕事の一部を手伝わせていただいているので、私も多忙な日々を過ごすことができしております。自営業ですから、加齢とともに確かに仕事はへっていくもの、そんな中、受注があるのはありがたい限りです。私の周囲の友人知人は定年になったので週に半分仕事になったり完全に引退したりといった働き方にチェンジしています。

世の中的に新年度の4月、春は別れと出会いの季節、街にはフレッシュマンらしき方々の姿が目立ってきました。新番組が続々と放送開始されましたが、冬ドラマで気になる作品がありました。バタバタしていてコラムをかなかつたので、少し遅いですが取り上げさせていただきます。

1月から3月下旬にかけて毎週火曜日夜10時に放送された「夕暮れに、手をつなぐ」にハマり、特に3/14放送分をみた感動がいまだに続き、しばらくの間、連日ネットで動画をみていました。主演の広瀬すずさん（空豆役）とキンプリの永瀬廉（音役）さんという美男美女の好演がひかり、お似合いのカップルのもどかしい恋の行方にハラハラ、やっと2人が互いの気持ちを正直にぶつけあった抱擁シーンに胸がキューンとなってしまいました。

恋はとっくにはじまっていたのにすれ違いばかりだった2人。パリに行く前の空豆と音の送別の夜のシーン……。離れたくないのに互いに誤解しているためによそよしい雰囲気の中、

「手をのばしたら届く、音に届く？」

「届くんじゃない、わりと簡単に」

空豆は勇気をだして、想いをよせる音に手をさしだし、その頬にふれる。

空豆を諦めようと決意していた音は恋しい女性の思いを感じ、ひしっと抱きしめる。

これまでどんなに時間がかかったことか。

涙の抱擁、美しくせつないハグ……遠い昔の恋(?)を思い出し(涙、涙)た次第。

かつて私は、どこかの媒体でかいたコラムで「スマホですれちがいメロドラマは成立しない」と書いたことがありますが、この2人、スマホでやりとりしているにもかかわらず、正直な気持ちをかいたメッセージを「送信取り消し」したり、大事な話をしている最中に電源がきれそうになり、その結果「既読」がつかず連絡がとれなかったりしています。自宅に電話をもっていない人が多かった昔の恋人たちは、手紙がメインの連絡手段で、それだけに時間差が生じてすれ違いが多かったのに、便利な時代になればそれなりに障害があるものですよ。

最終回(3/21)では、空豆と音の恋愛の障壁となった他者が2人に自分の過ちを正直にわびたり、幼い娘をすてて自身の野望を選んだ母が娘に謝罪したりと、人が生きていくうえで犯してしまう過去の罪が精算され、とても心地よかったです。「ごめんなさい」や「ありがとう」という言葉はなかなか口にはできないよう(?)ですが、心から素直に言えば、人間関係はわりとうまくいくものですよ。

空豆は自分を捨てた母をゆるめず反抗的でしたが、涙をながしながら母の手を握ります。誤解しあった恋人たち(空豆と音)も、少し前に互いに手をのばして心をさらけただけに、過去の真相が明らかになっても動じない強さを身に着けていましたよね。


学生時代は終わったけども、まだ何者でもない夢の途中にいる2人。大人のようにそうではない2人の青春がハッピーエンドで終わって本当によかったです。

本作では女優の広瀬すずさんの女優力に圧倒されました。九州弁がうまい(私自身が九州出身)！永瀬廉さんはキンプリのメンバーだとしらず、Snow Manの「目黒連」と勘違いしていましたが、お気に入りスターの一人になったのでしっかり覚えました。

恋愛に限らず私達がいきていくためには、手をつなぎ・心をつなぎあうことが大事だということ、コロナ禍の不自由な生活が教えてくれましたよね。みやちゃんは日々、FBなどで人と人との繋がりの大切さを訴えていました。コロナが去ってもおひとり様社会では、とりわけその思いを強く持ちます。

★ドラマ「夕暮れに、手をつなぐ」

https://www.tbs.co.jp/yugure_tbs/



余談ですが、ここまで書いて気づきました。日頃ジェンダー意識が高く声高に叫んでいるものの、無意識に使っている言葉。広瀬すずさんは、「女優」ではなく「俳優」というべきでした。他に気を付ける言葉としては、次の通りです。

「女医」→「医師」

「看護婦」→「看護師」

「父兄」→「保護者」

「家政婦」→「家事代行」



女性の先輩たちが苦勞して勝ち取った男女平等の意識ですから、無駄にしたくないですね。さあ～、手をつなぎ心をつないでいきましょう。そうすれば、あなたは独りぼっちではないと気づくことでしょう！

